

■ 実務シリーズ 2 ■

単行本の整理

I. 単行本の基礎知識

松本純子

1. はじめに

一般に「資料」と呼ばれているものには、単行本(単行書)、雑誌、パンフレット、マイクロ資料、視聴覚資料などがあります。今回から3回にわたってその中の単行本を取り上げ、整理の仕方を中心に説明したいと思います。

わたしたちは日常、本、図書、書籍、書、書物、ブック、単行本などと種々な呼び方をしています。そしてその意味も案外あいまいに使っているものです。図書館での資料整理はまず、発行形態や物理的な形態などから資料を種類別に分類することから始まります。

そこで「単行本の整理」に入る前に、第1回目は単行本とはどのような資料のことを言い、逐次刊行物(雑誌)とはどう違うのか、また我々は単行本をどのような経路で入手しているのか、その出版情報はどこで得られるのかなど、単行本全般のことについて述べたいと思います。

2. 単行本とは

単行本とは「1冊もしくは2冊以上の既定の冊数で完結する出版物」と定義されています。ですから叢書、全集、シリーズなど長期間にわたって刊行されるものでも、予定された巻や号が出版されると刊行が終了するものは単行本であるといえます。英語の Monograph (非逐次刊行物資料)がだいたい単行本にあたります。それに対して、逐次刊行物(雑誌)は終期を予定しないで定期的

(週刊、月刊、年刊など)あるいは不定期的に刊行される出版物で、雑誌、新聞、学会等の紀要・会報、年報などの他、1970年代より非印刷物も含まれるようになりました。英語では Journal (学術雑誌)、Periodical (定期刊行物)、Magazine (雑誌)などがそうです。

ところで資料の中には単行本か逐次刊行物かの扱い方に迷うものがあります。図書室で受け入れているものの中から具体的な例をあげますと、今日の治療指針、日本病理剖検輯報、厚生白書、○○の進歩、○○年鑑などです。これらは単行本の形態をしていますが、終期が予定されず続けて刊行されるものなので逐次刊行物になります。

明らかに雑誌の形態をしているもの(例えば日本内科学会雑誌、American Journal of Medicine など)は別ですが、この場合四角四面に考えて分類するよりも、むしろ利用サービスを念頭において決めることが大切だと思います。すなわち利用者にとってこのような資料は、単行本、逐次刊行物のどちらの方が利用しやすいかということです。また資料の種類によって整理の仕方や排架する場所が異なりますので、受け入れた時点で扱い方を決定し一貫性をもたせることが重要です。

3. 単行本の構成

単行本の整理とは受け入れ、分類、目録作成、装備、排架までを言いますが、その中でも、分類と目録作成は整理業務の中でも中心となる仕事です。分類、目録については、第2回と第3回で詳しく述べますが、それぞれの作業に必要な情報源が単行本のどこにあるのか、たとえば分類作業で

は主題や内容をとらえるには何が参考になるのか、目録の記入事項はどこをみればよいか、などを知っておく必要があります。

一般に単行本は次の順に編集されています。

表紙、〔前とびら〕、標題紙、序文・前書き、目次、本文、〔付録〕、〔あとがき、解説〕、索引、奥付（洋書の奥付は標題紙の裏にあります）、裏表紙。その他、書誌情報源としては、背、ブック・ジャケット・カバー、帯紙があります。以下各部について簡単に説明します。

表紙 (Cover) : 図書の表の外装。書名、シリーズ名、著者名、出版者などが示されている。

前とびら (Half title page) : 標題紙の前にあって、簡略な書名やシリーズ名などが示されているページ。ない場合が多い。

標題紙 (Title page) : 普通図書の最初において、完全な書名、シリーズ名、著者名、出版事項が示されているページ。

序文・前書き (Foreword, Preface) : 図書の本文の前にあり、その図書中の著作の動機、目的、内容の趣旨などを述べたもの。協力者の謝辞なども含む。

目次 (Contents) : その図書の内容をその構成に従って順に表した見出しで、章や節など各見出しには本文のページが示されている。

本文 (Letterpress) : 図書の主体となる部分。挿図を含む。

付録 (Appendix) : 参考文献一覧、統計表、解説資料のような本文の完全性に不可欠でない補

足的な部分。

索引 (Index) : 内容にアクセスするために、内容を表す用語を規則的に排列したもの。

奥付 (Colophon) : 和書の場合、通常図書の末尾にあり、その図書の著者、書名、出版者、出版地、出版年、印刷者、印刷地、印刷年、版次、刷次、定価、ISBN (国際標準図書記号; 後述) などその図書に関する情報の表示がある。

洋書は標題紙の裏面にあり、初版発行年およびその後の版や刷の年、著作権 (Copyright) 関係事項、ISBN、出版者の所在地、印刷者名、出版者名、CIP データ (Cataloging in Publication) などが示されている。

裏表紙 (Back cover) : 図書の裏の外装。

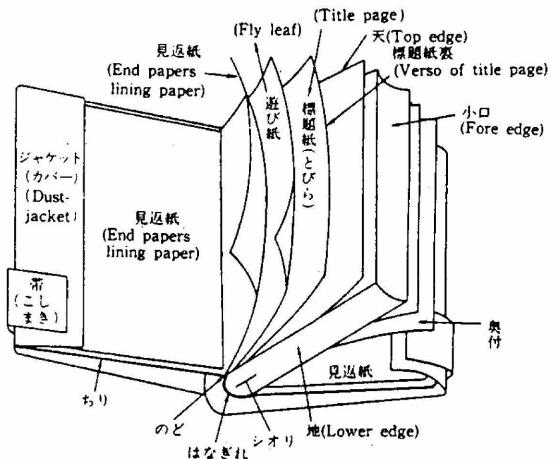
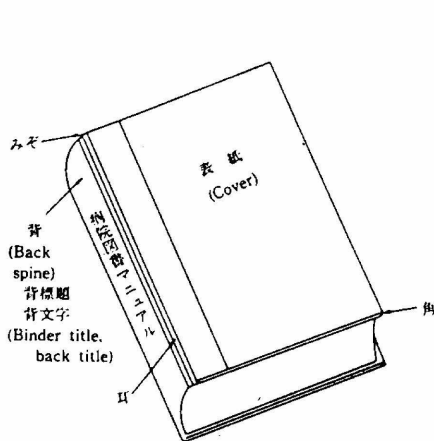
背 (Spine) : 図書の表紙の背部。書名の他に著者、出版者が入っていることがある。

ブック・ジャケット・カバー (Jacket) : 外装紙。書名、著者名、出版者等。両端の折込部分に著者の紹介や内容の要旨などが記載されていることがある。

帯 (帯紙) : 本の表紙の下部に巻き付けてある帯状の印刷物で、内容の抜粋、宣伝文句、推薦のことばなどが書かれている。

4. 出版流通ルート

それでは単行本はどのようなルートで我々の手元に届くのでしょうか。図書室では通常書店から出版物を購入しています。これは書店 (正常) ル



ートと呼ばれ、出版者→取次会社→書店→読者・図書館と流れるルートで、現在70%程度のシェアがあるとされています。

取次会社では、東京出版販売株式会社（東販）、日本出版販売株式会社（日販）が大手会社で全国のシェアの過半を占めています。書店に在庫があればすぐに現物が入手できますが、ない時は取次会社や出版者といった流通過程を経ますので、図書館に届くまで1週間から1カ月ほど日数がかかります。

病院図書室の場合、この書店ルートによる購入が大半を占めています。しかし取次不扱い本、たとえば流通ルートにのらない小出版者や各種団体などが発行している出版物の場合には、直接出版者に発注し購入することになります。その他の出版流通ルートには、教科書ルート、割賦販売ルート、鉄道弘済会ルート、スタンド販売ルート、政府刊行物ルート、直接販売ルートなどがあります。

和書は以上のようなルートで入手しますが、では洋書はどうでしょうか。洋書の流通は輸入業者といわれる大小さまざまな業者が扱っています。丸善、紀伊国屋書店、独亜書院など直接輸入を扱う書店を通して図書館は洋書を購入するわけです。欧米の出版者では販売価格を国内向けと外国向けに分けているところもあり、また一点一点の扱いとなるため為替手数料や送料がかかりますので、購入価格は定価のたいたい6割増し位になると考えられます。

ところで、最近は大手の出版者や書店が欧米の主要な出版者と提携し代理店（Agent）になるケースが増えてきています。今日では代理店が洋書の6～7割を占めていると言われます。つまり流通ルートは欧米の出版者→国内の代理店（取次）→書店→読者・図書館となり、洋書も書店ルートに近い形になってきていると言えます。

発注した図書が書店や代理店に在庫がない場合は以上のようなルートを経ますので、海外から手元に届くまでおよそ1カ月以上の日数を要します。

5. 出版情報

毎年膨大な量の出版物が発行され、病院図書室

へも国内外の出版者からひんばんに出版情報のダイレクトメールが送られてきます。ところで我々が単行本の出版情報を知りたいと思うのはどういう時でしょうか。(1)資料を選択する時 (2)書誌的事項を調べる時 (3)出版の有無を調べる時などが考えられます。

出版情報を単行本の刊行時期を基準に考えますと、(1)近刊情報 (2)新刊情報 (3)既刊情報の3つに分類できます。また、情報が掲載される資料を形態別に見ますと、(1)出版者・書店発行のパンフレット (2)新聞・雑誌の広告や書評 (3)出版目録などの書誌類に分けられます。

次に単行本の出版情報の主なものをあげておきます。これらの大半は取引のある書店へ申し込めば無料で入手することができます。

① 近刊情報

- ・国内、欧米の出版者からのダイレクトメールが一般的。
- ・これから出る本（日本書籍出版協会）
月2回刊行

② 新刊情報

- 〔和書〕
- ・医学新刊情報（丸善）、月刊
- ・医学書新刊（日本医書出版協会）、月刊
- ・新刊図書目録（東販）、月刊
- ・ウィークリー出版情報（日販）、週刊
- 〔洋書〕
- ・丸善新刊洋書ご案内；
Part D: MEDICAL SCIENCES、月刊
- ・Announcement of Forth-Coming & New Books（紀伊国屋書店）、月刊
- ・Medical Book News（医学書院）、月刊
- ・Nankodo Book Bulletin（南江堂）、隔月刊

③ 既刊情報

- 〔和書〕
- ・医学書総目録（日本医書出版協会）、年刊
- ・医学書総目録（医学書院）、季刊
- …看護系…
- ・ナースと本（医学書院）、季刊
- ・看護学・医学図書目録（メジカルフレンド社）、年刊
- ・図書目録（日本看護協会出版会）、年刊

以上あげた資料以外では、直接書店や出版者に問い合わせたり、日販のNOCS、東販のTONE TSを活用してコンピューターによる検索コーナーを設けている一般の書店を利用するものも一つの方法です。NOCS、TONETSは出版情報のオンライン・ネットワーク・システムです。また、国立国会図書館作成の書誌情報をCD-ROM化したJ-BISC (Japan Biblio-Disc)は、図書の検索の他、目録カードの作成などができるツールです。J-BISCについての詳細は「目録」で説明します。

洋書のCore Book (基本図書)には版を重ねているものが多くあります。改版の情報は定期的に出版情報に目を通していれば分かりますが、書店にCore Bookリストを渡しておき、改版のつど見計本を届けてもらうのもよい方法かと思えます。

6. ISBN

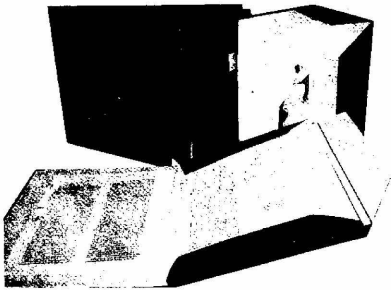
さて、最後に単行本の奥付や裏表紙に記載され

ているISBNについて簡単に説明しておきます。

ISBN (International Standard Book Number)、国際標準図書記号は、もとは欧米の出版者が図書の国際的流通のための共通の商品番号を設定しようとして始まったものです。日本での実際の使用は1981年に始まり、今日では出版物の97%以上に付与されるようになりました。

ISBNは4つの部分、10桁の数字で構成されています。4つの部分とは①グループ記号(世界を国、地域、言語等を単位としたグループ。日本のグループ記号は4)②出版者記号(グループ内の出版者につけられた番号)③書名記号(その出版者での整理番号)④チェック数字(コンピューターシステムでよく使われるチェックデジット)です。すなわち10桁のうち9桁の数字が、「どこの国の、どこの出版者の、何番の本」という意味を表しています。ISBN、業界販売統計に使っている分類コード、定価を総称して「日本図書コード」と呼んでいます。

次回は「単行本の分類について」です。



書簡・葉書・素描・拓本・ 水墨画・賞状などを中性紙 で完全に保護する、ガード ブックをお奨めします。

美術品の保護を目的として抄造された中性紙(特種製紙 傑商品名マーメイド)を素材として考案された、額ブチ感覚のたとう式ホルダーです。

11面収納でき、大きさはB5、A4、B4判のものがゆったりはいらいます。特大型、変型のものの御注文にも応じます。

構造は、収納物の裏面にマーメイド、表面には「薄く、強く、柔らかく」を特長とした半透明の版画・水彩画などの作品保護用ILティッシュと、光線をさえぎるよう開発されたポリセームPX0.2クリヤーとの三段構えの額ブチに劣らぬすぐれた構造で、しかも表紙を閉じれば、内蔵されたマグネットによりおのずと完全密着し、立て

ても小口がひらくことはありません。

表紙に用いる純麻独特の風合いと、落ち着いた色調(濃茶・濃紺)は、御希望によりお入れするタイトルの金文字の光と相俟って、全体にシックな仕上がりとなっています。

多くの大学図書館、資料館などで大変御好評を頂いております。

また当社では、軸装をはじめとして、和漢籍のウラ打ち修理、伝統の映、たとう、古地図など、貴重な古書を保護するための、多種多様のBook Boxも製作しております。

御一報下さい。多少に拘らず保りのものがお伺い致します。

図書館に関する製本業務のすべて
洋装本・和漢書籍の修復および
貴重書保存のための保護ケースの製作

(株) 暁 工房

〒552 大阪市港区弁天6丁目4-20
TEL (06) 571-3177番
FAX (06) 571-3188番